



会場となったカーザ・マリア・ルイジャには世界各地から31台のフェラーリが集結。オーナーであるマッシモ・ボットウーラは、モデナのレストラン、オステリア・フランチェスカーナのオーナーシェフとしても有名だ。

VINTAGE NOW

Cavallino Concorso di Modena

新しいクルマの祭典、モーター・ヴァリー・フェストに沸くモデナを舞台に数多くのイベントを手がけるカノッサ・イベントが主催するフェラーリを主役とした新たなコンクール・デレガンスが開催された。その模様をミラノ在住のジャーナリスト、野口祐子のレポートでお届けする。

カヴァリーノの新境地

イタリア・モデナを中心に、またたく新しい街ぐるみの自動車イベントとして7月1日から始まったモーター・ヴァリー・フェスト2021。4日間におよぶ各地での催しの一環として、7月3日に開催されたのが「第1回カヴァリーノ・コンクール・デイ・モデナ」だ。

「カヴァリーノ」と聞くと、1992年に誕生したフェラーリの専門誌「カヴァリーノ」と、彼

らが主体となり、毎年アメリカ・フロリダ州のバームビーチのブレーカーズ・ホテルで開催されているヒストリック・フェラーリに特化したコンクール・デレガンスである「カヴァリーノ・クラシック」を思い出す方も多いかもしれない。

今では世界中のフェラーリ愛好家の間で知らぬ人はいないほど有名になったカヴァリーノだが、彼らの長年にわたる取り組みによって、今のヒストリック・フェラーリの価値が定着した、と言っても過言ではないだろう。

そんなカヴァリーノの権利をイタリアに本拠地を置くクルマを中心に幅広く活動しているイベント会社であるカノッサ・イベントが買収した

のと、カヴァリーノ・クラシックの30回記念を祝して、フェラーリ創作者のエンツォ・フェラーリ誕生の地であるモデナで、カヴァリーノ・コンクール・デイ・モデナを開催することになった。

その舞台として選ばれたのは、今や世界一と謳われているモデナのレストラン「オステリア・フランチェスカーナ」のオーナーシェフでエミリアロマーニャ州のアンバサダーとしても大活躍のマッシモ・ボットウーラが新たにスタートしたゲストハウス「カーザ・マリア・ルイジャ」だった。

街道に面した鉄門から真っ直ぐ長く続く並木道を進むと、その先に1700年代に建てられた屋敷が見え

TEXT◎野口祐子 (NOGUCHI Yuko) PHOTO◎Canossa Events <https://canossa.com/>
COOPERATION◎Motor Valley Fest 2021 <https://motorvalley.it/motorvalleyfest/>
Emilia Romagna Turismo www.emiliaromagnaturismo.it
Casa Maria Luigia <https://casamarialuigia.com>





Cavallino Concorso di Modena RESULT

2018年にドロミテ地方を襲った嵐によって伐採されてしまった何百万本の木を使用して製作されたトロフィーも、今回の特徴の一つ。

■ **Scuderia Ferrari Cup/
Best of Show Competition Ferrari Carrozzeria Touring**
1951 **Ferrari 340 America** #004/0116

■ **Gran Turismo Ferrari Cup/
Best of Show GT Ferrari Carrozzeria Pinin Farina**
1954 **Ferrari 250 Europa** #0303

■ **Platinum Award**
1948 **Ferrari 166 MM** #0048
1951 **Ferrari 340 America** #004/0116
1954 **Ferrari 250 Europa** #0303
1956 **Ferrari 250 GT Berlinetta** #0507
1957 **Ferrari 250 GT Cabriolet** #0735
1958 **Ferrari 250 GT Berlinetta** #0911
1959 **Ferrari 410 Super America** #1265
1965 **Ferrari 275 GTB** #07637
1966 **Ferrari 275 GTS** #08653
1972 **Ferrari 365 GTB/4** #16037
1980 **Ferrari 512 BB LM** #31589
1989 **Ferrari F40** #83234
1994 **Ferrari 333 SP** #06
1996 **Ferrari F50** #105193
2004 **Ferrari Enzo** #137756

■ **Coppa dodici cilindri** (outstanding 12-Cylinder)
1959 **Ferrari 410 Superamerica** #1265

■ **Coppaotto Cilindri** (outstanding 8-Cylinder)
1989 **Ferrari F40** #83234

■ **Classic Preservation Cup** (outstanding preserved condition 1976-2004)
1996 **Ferrari F50** #105193

■ **Vintage Preservation Cup** (outstanding preserved condition pre-1975)
1972 **Ferrari 365 GTB/4** #16037

■ **Excellence Cup** (outstanding restoration Quality)
1966 **Ferrari 275 GTS** #08653

■ **Competizione Cup** (outstanding racing Ferrari)
1956 **Ferrari 250 GT Berlinetta** #0507

■ **Elegance Cup** (outstanding coachbuilt Ferrari)
1957 **Ferrari 250 GT Cabriolet** #0735

■ **Judges Cup** (Ferrari most deserving as selected by Judges)
1948 **Ferrari 166 MM** #0048

■ **Massimo Bottura** (Osteria Francescana・Casa Maria Luigia)
1951 **Ferrari 340 America** #004/0116

■ **Luigi Orlandini** (Cavallino e di Canossa Events)
1963 **Ferrari 275 SP** #0816



ベスト・オブ・ショー GTフェラーリを受賞した250GTヨーロッパ。1954年1月のブリュッセル・サローネに展示されたそのもので、同年3月にイタリアヘデリバリ。その後数人のオーナーを経て2000年にオリジナルの姿にレストアされた。



なぜか今回入賞できなかったフェラーリで最も人気、価値があるモデルの一つ、250GT。この3445GTは1962年のル・マンや1963年のタルガ・フローリオへの出場歴はある個体で、かつて日本のマツダ・コレクションに所蔵されていたこともある。



コンペティション部門でベスト・オブ・ショーに輝いた1951年の340アメリカ。このクルマは1951年のル・マンにルイ・ドレフュス/ルイ・シロンのドライブでエントリー。52年のル・マンにも挑戦するが、いずれもタイヤに終わっている。

てくる。これはポットウーラ夫妻が「ゲストの方がゆつたりとした空間で安心して過ごせるように」と考えて建てたゲストハウスで、自然とアート作品が共存する洗練された庭園やプール、テニスコートもあり、エミリア・ロマーニャ地方の暮らしが満喫できるようにしている。

コンクール当日、晴天に恵まれたゲストハウスの正面にはフェラーリの歴史の礎となったアウト・アヴィオ・コストルツィオーニ815が置かれ、その後に続いて数多くのスト

リーを生んだフェラーリたちを出迎えていた。会場にはその815を暖かく見守るように9台のコンペティションのフェラーリが、そして屋敷の裏側に広がる緑に包まれた広々とした敷地には、世界4大陸から集まった素晴らしいコンディションのフェラーリたちが並んだ。中でも注目を浴びていたのは、今回グランツリーズモフェラーリカップ/ベスト・オブ・ショーGTフェラーリを受賞したフェラーリ250ヨーロッパ。ライトグリーンの爽やかなボディが印象的なこのクルマは、フェラーリ初のGTカーとしても知られるモデルで、1954年のブリュッセル・サローネに展示されたものだ。また、プラチナ・アワードを受賞した参加車の中で最も古いフェラーリ166MMは、1949年のトリノ・サローネで発表された、カロッツェリア・トゥーリングの均整の取れた美しく上品なラインが魅力的なモデル。出品車は5台生産されたベルリネッタの中の1台だという。このように参加したこのクルマも素晴らしいストーリーがあり、フェラーリの歴史

の深さを再認識することができた。未だにコロナ禍で見えない状況の中、モデナの地まで来ることができなかったオーナーもいたというが、それでも貴重なフェラーリたちは色々な人の手を借りてエンツォ・フェラーリに敬意を抱きかざり、マリア・ルイジャまでやって来た。その殆どこのクルマがモデナ県近郊でレストアされたもので、コンクールに集まった31台のクルマの総額は、なんと日本円にして約300億円に相当すると言ふ。その完成度を見てみるとフェラーリとともに歩んで来た職人達の底力までが伝わって来るようだ。

その後、参加車両は午後5時に会場を出発し、モデナの中央のローマ広場までパレードを行った。広場に集まった人たちは普段見られない華麗なフェラーリの姿に大感激の様子だった。

やはりフェラーリ・オーナーにとって、モデナは特別な土地。そのモデナでフェラーリを披露することができたことはオーナーにとっても最高の瞬間だったことだろう。今後キャバリーノ・クラシックは、12月のF1アブダビGPの時期にドバイで、2022年にはフロリダ、そしてまたモデナと、世界各地で開催される予定だといふ。フェラーリスタなら、その動向に注目して損はないはずだ。



コンクールの後で参加車両がモデナの中央ローマ広場までパレード。1981年のル・マン・カー、フェラーリ512BB LMが街中を走る姿は圧巻！またギャラリーの注目を浴びていた1989年型のF40は、唯一の日本からのエントリーだった。

